

Linux 上で初の高度な管理性とアクセスコントロールを実現する「Novell SUSE Open Enterprise Server」を発表

ノベルは、新製品「Novell SUSE Open Enterprise Server」(以下、SUSE Open Enterprise Server)の出荷を、本年5月23日より開始することを発表した。SUSE Open Enterprise Serverは、企業向けOSとして着実に浸透してきたNovell SUSE LINUX Enterprise Server 9(以下、SUSE LINUX Enterprise Server 9)上に、ノベルがこれまで培ってきたテクノロジーを数多く移植し、高度な管理機能を備えたエンタープライズネットワークサービス機能をワンパッケージで提供する製品である。現在Novell NetWareを利用している企業をはじめ、Linuxの適用範囲の拡大を検討中の企業に対して、高い管理性とポリシーベースのアクセスコントロール機能を備えたサービスを提供することができる。SUSE Open Enterprise Serverの特長と主な機能は次のとおり。

【特長】

SUSE Open Enterprise Serverは、Linux上で初めて、ファイル共有やプリントサービス、ユーザーアカウント管理などのネットワークサービス機能をワンパッケージで提供するソリューションである。企業は高品質なサーバ機能とノベルが提供するサポートにより、安心してLinux導入を行える。

SUSE Open Enterprise Serverは、ノベルが長年の実績を誇るディレクトリ技術を基盤とするユーザーアカウント管理機能を実装している。また、SUSE Open Enterprise Server上でのユーザー管理は、SUSE LINUX Enterprise Server 9

およびNovell eDirectory上のユーザー情報を統合するだけでなく、Active Directoryと同期を図ることで、一元的な集中管理を実現している。

SUSE Open Enterprise Serverとファイルへのアクセス権を連携させることで、Linux上できめ細かいアクセスコントロールを実現。役職やグループといった個々のユーザー単位から、部門や国内外の支店、本社などの所属までをポリシーベースで管理し、適切な情報をユーザーに提供するファイルサーバシステムを実現することができる。

SUSE Open Enterprise Serverは、コストや拡張性といったオープンソースの利点と、Novell NetWareが提供してきた実績あるサービスの利便性を兼ね備え、多くの企業に新たな選択肢を提供することができる。また、これまでNovell NetWareなど他サーバを使用している企業に対しては、移行のスキルやワークロードを気にすることなく迅速かつ確実にすべてのサーバ上の資産をSUSE Open Enterprise Serverに移行できるマイグレーション機能を提供することができる。

【主な機能】

・Novell Storage Services (ファイルサービス) : 企業ディレクトリと連携することで、安全できめ細かいファイルアクセスを実現。

・Novell eDirectory、Novell Nsure Identity Manager (アカウント管理) : Novell eDirectoryによるユーザーアカウント統合管理とNovell Nsure Identity

Managerによるディレクトリの連携を実現。

・Novell Cluster Services (クラスタリング機能) : 最大32ノードまで拡張可能なクラスタリングサービスを提供することで、継続的なビジネスを実現。

・Novell iPrint Service (プリントサービス) : ブラウザに表示されたマップ上から利用したいプリンタを指定するだけで、即座に印刷を行える。

・Server Consolidation Utility (マイグレーション機能) : Novell NetWareやWindows NTサーバを使用している企業がスムーズに移行できるツールを提供。

・iManager (集中管理機能) : Webブラウザベースの管理コンソールにより、管理者はロケーションを問わずにSUSE Open Enterprise Server上のユーザーの追加やサーバ監視などの集中管理が可能。

・YaST (インストレーション機能) : Novell SUSE LINUX独自の管理機能であるYaSTによる簡単なインストールの実現により、管理者はより生産性の高い業務に注力することができる。

・LAuS (Linux Audit Subsystem / システム監査機能) : アクセスログの取得により、セキュリティ問題の発生後の対策だけでなく、未然防止策としても機能する。

・Novell iFolder (クライアントPCのデータバックアップ) : 個人PC上のデータを自動的にサーバへバックアップすることで、サーバには常に最新のファイルが保持される。

マイクロソフト

プログラミング言語 C # が JIS に制定 標準化された C # を使用した講義を本年度から電気通信大学が実施

米国マイクロソフトがオリジナル開発した、最新のオブジェクト指向プログラミング言語「C#」が、標準プログラミング言語として日本工業規格（JIS）に制定（JIS X 3015 プログラミング言語 C#）され、3月22日に公示された。プログラミング言語 C# は、プログラミング言語 C++ から引き継がれた強力な機能をベースに開発された、最新のオブジェクト指向プログラミング言語である。開発者が簡単に理解できる強力な言語体系をもち、プログラミング言語 C、C++ および Java の開発者が容易に使いこなすことができるといった特長をもっている。プログラ

ミング言語 C# は、国際的な標準作成団体である Ecma International に、米国 HP 社、Intel 社とマイクロソフトが共同提案し、2001年に Ecma 規格となり、2003年には、ISO/IEC JTC のプログラミング言語の国際規格として採用された。そして、今回、国際一致の JIS としても採用された。

国立大学法人電気通信大学では、2005年度より JIS で標準規格化されたプログラミング言語 C# の講義を導入した。電気通信大学教授の竹内郁雄氏は、「これからの有力な標準プログラミング言語 C# を使った実践的プログラミング教育を、電気通信大学が先頭

をきって、しかも全学科・全学年の学生を対象に実施できることは大きな喜びです。これによって学生がソフトウェア開発の楽しみを知り、ソフトウェアの力で発信できるきっかけになることを期待します」と語っている。

マイクロソフトは、プログラミング言語 C# を、開発ツール「Microsoft Visual Studio」の開発言語の 1 つ「Microsoft Visual C#」として提供している。Microsoft Visual C# は、Microsoft Windows、および Web、XML Web サービスなどの Microsoft .NET ベースのアプリケーションを作成するパワフルなツールである。

OSDL ジャパン (03-5288-8777)

韓国電子通信研究院が OSDL のキャリアグレード Linux と データセンター Linux の両ワーキンググループに参加

エンタープライズ・コンピューティングにおいて Linux の採用加速に取り組むグローバルコンソーシアムである OSDL (Open Source Development Lab) は、韓国の電子通信研究所 (ETRI) が韓国で最初の OSDL メンバーとなり、キャリアグレード Linux (CGL) とデータセンター Linux (DCL) の両ワーキンググループに参加することを発表した。

ETRI は、2004年4月に韓国、日本、中国が発足した「OSS推進フォーラム」において、アジアの経済競争力向上における協力体制の中核として、韓国市場における Linux の開発やプロモーションなど、オープンソースソフトウェアに

関する多様な活動を行っている。

ETRI のチームリーダーである Sung In Jung 氏は、今回の OSDL への参加について、「ETRI は、韓国および世界中のビジネスとコンシューマ向けの Linux テクノロジーの開発をコミットしています。我々は、OSDL のキャリアグレード Linux ワーキンググループにおいて、他のメンバーと協業し、我々の 25 年にわたるコンピュータとテレコミュニケーションシステムの研究開発における専門知識を提供して Linux を発展させたいと考えています」と語っている。一方、OSDL アジア担当ディレクターの平野正信氏は、「韓国政府機関および多

くの産業部門では、Linux に対して熱狂的に関心が高く、OSDL は Linux の採用を加速させるために、韓国の民間企業および公共機関と協業することをコミットしています。韓国でトップのテクノロジーグループのひとつである ETRI が、韓国で最初のメンバーとして OSDL に参加することを非常に嬉しく思います」と語っている。

韓国政府による Linux へのコミットとして、韓国の IT Industry Promotion Agency は、2004年1月に、政府の IT プロジェクトを Linux およびオープンソースソフトウェアに移行することを発表している。

アプリケーション固有のビルダーを迅速に構築してエンドユーザーに提供する グラフィック開発パッケージ「SL - GMS Custom Editor for .NET」の新製品を発表

リアルタイム情報の監視とグラフィック画面表示のソフトウェア・ソリューションでリードする米国SLコーポレーション (SL社) の日本法人であるSLジャパンは、同社の「SL-GMS Custom Editor for .NET」の新製品を発表した。

SL-GMS Custom Editor for .NET は、Microsoft Visual Studio .NETで使用できる強力なグラフィック開発パッケージで、高性能リアルタイム監視制御アプリケーション用のカスタム・エディタ (ビルダー) を迅速に開発してエンドユーザーに提供する製品である。また本製品は、製造業向けのソリューションプロバイダーが、そのアプリケー

ション用にカスタム化してブランド化したWebオーサリング・ビルダーをエンドユーザー顧客に提供できるようにしたもので、これによりエンドユーザーは、リアルタイムでダイナミックな監視制御グラフィック画面を、職務や役割に応じてプログラミングすることなく、構成できるようになる。

今回発表されたSL-GMS Custom Editor for .NETの新製品には、カスタム・エディタを作成する際に必要となるVisual Studio .NETで使用することができるMicrosoft .NETコントロールと、そのエディタ・コントロールを使ったカスタム・ビルダー作成方法を示すシ

ンプルなC#サンプルが含まれている。また、エディタ・コントロールを使ってフル・エディタを実装するためのC#ソースコードやフル・エディタ機能を持った.NETアプリケーションなども含まれている。

SL社のSL-GMS (SL社開発グラフィック・モデリング・システム) は、製造業向けのHMI (ヒューマン・マシン・インタフェース) 応用システムを作成するためのC++、Java、.NETダイナミックGUIソフトウェアの提供で、20年間にわたり業界をリードしてきたラインアップ製品で、HMIシステム製品に数多く組み込まれている。

ミラクル・リナックス (03-5404-5038)

64ビット環境に対応した高可用性クラスタ製品 「MIRACLE CLUSTERPRO V3.1 for x86-64」の出荷を開始

ミラクル・リナックスは、エンタープライズLinux事業の拡大を図るため、いち早くIntel 64ビットXeonプロセッサやAMD Opteronプロセッサ/Athlon 64プロセッサに対応した同社の高可用性クラスタ製品「MIRACLE CLUSTERPRO V3.1 for x86-64」の出荷を開始した。

MIRACLE CLUSTERPRO V3.1 for x86-64 は、Linux対応クラスタソフトのトップシェアを誇るNECの「CLUSTERPRO」が64ビット対応したことを受け、同社のLinux OSである最新64ビット対応の「MIRACLE LINUX V3.0 - Asianux Inside for x86-64」への対応を完了した。これにより、64ビッ

ト環境のリソースを最大限に活かせるようになり、エンタープライズ用途で要求される高負荷なシステム対応が可能となった。特にOracle Databaseとの連携によるHAシステム構成において最大のメリットを発揮する。本製品の長は次のとおり。

x86-64対応「MIRACLE LINUX」と「CLUSTERPRO」のメリット
・64ビットアプリケーションのHAクラスタシステムの構築が可能
・64ビットの広大な仮想メモリ空間をフル活用し、システム全体の安定性とパフォーマンスが向上
・OSが32ビット互換モードをサポー

トしており、既存資産を有効活用でき、高い信頼性が得られる

Oracle Database for x86-64との連携によるHAクラスタシステム構築に最適
・仮想メモリのユーザー空間が3GBから512GBと大幅に拡大し、DBの物理メモリを最大限に活用できる

・32ビット版と同価格で、非常に高い投資効果が得られる

今後は、本製品の発売を記念して、24時間365日止まらないHAクラスタシステム導入を促進することを目的とした技術者向けMIRACLE CLUSTERPROの導入研修の開催や、導入コンサルティングを実施していく予定である。

ハイペリオン (03-5544-9310)

ウィザードで経営ダッシュボードを簡単に構築する 開発ツールを発表

戦略的な経営管理を実現するビジネス・パフォーマンス・マネージメントのトッププロバイダーのハイペリオンは、僅か数時間で経営ダッシュボードの構築を実現するDashboard Builder日本語版の出荷を開始する。

Dashboard Builderは、Hyperion Performance Suite 8.3を使ったダッシュボードの構築を短時間で実現する開発支援ツールである。ウィザードの手順に従い、たった8つのステップで見栄えの良いダッシュボードを作成できるので、専門的なプログラミングの知識や経験はまったく必要ない。既存のHyperion Intelligenceドキュメントを利用して多様な部門や業種に適應した、

見やすくパワフルなダッシュボードが簡単に構築できるので、情報システム部門の作業負荷を大いに抑えることができる。同社の代表取締役社長の平野拓也は次のように語っている。

「業務の主な指標を瞬時に提供する経営ダッシュボードは、事業を運営する上で必要不可欠なものです。さらに最近では、赤信号が点灯した項目については直にドリルダウンし、その場で詳細データを分析し問題を把握するなど、動的な経営ダッシュボードが求められています。ハイペリオンでは、このような企業のニーズを満たし、全社にわたって問題箇所を瞬時に把握し、その事実を基に改善策の判断を支援する、

経営ダッシュボードを構築するためのフレームワークを提供しています。」

Dashboard Builderの主な特徴は次のとおり。

- ・ウィザードとテンプレートによるダッシュボード構築
- ・たった8つのウィザードステップで簡単に構築
- ・既存のHyperion Intelligenceドキュメントを利用して構築
- ・プログラミングなどの専門的な技術知識は不要
- ・ダッシュボード構築の生産性を大幅に向上
- ・複数の指標や経営情報を一貫性のあるインタフェースから提供

日立製作所 (0463-87-6786)

統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」に 中小規模システム向けエントリーモデルを追加

日立製作所 情報・通信グループは、同社の統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」に、部門業務システムなどの中小規模システム向けにブライスパフォーマンスを向上させたエントリーモデル3種を追加し、4月28日から順次出荷を開始した。また、同時に本製品とソフトウェア、サービスの最適な組み合わせで、迅速なシステム構築を実現するソリューション「ベストプラクティススイツ」3種の提供も開始した。

BladeSymphonyは、ブレード仕様のサーバ部（ブレードサーバ部）と、ストレージ部、ネットワーク部および

オペレーティングシステム、システム管理ソフトウェアをユーザーの要件に合わせて組み合わせるプラットフォーム製品である。今回の製品は、中小規模システム向けにより導入しやすいように、16Uのハーフラックキャビネットを採用し、省スペース化が図られている。ストレージ部にディスクアレイ装置を使用せず、オンライン交換が可能なRAID構成のHDDモジュールを搭載した最廉価構成のモデルや、自動化運転などの複雑な制御を必要としない業務向けのコンパクトディスクアレイ装置「CR80」をベースにした低価格な専用内蔵ディスクアレイ装置を搭載

したモデルが追加された。また、同モデルの省スペースと低価格を活かしながら、さらに拡張性を高めるために、ファイバーチャネルスイッチをサーバ部のサーバシャーシに内蔵したモデルも追加した。各モデルともに、現行のBladeSymphonyにおける同等構成と比較して、最大約50%の低価格化を図っている。

今回発表されたエントリーモデルは、部門サーバや、数百人規模の中小規模業務システムにおけるサーバやストレージの統合、あるいは将来の処理量が増加することが見込まれるシステムに非常に適している。